

平成23年度
「学生による授業評価」
報告書

平成25年3月

宮崎大学農学部

まえがき

ここに平成23年度の「学生による授業評価」報告書をお届けします。

本報告書の目的は授業評価を基にした教員の授業改善活動の成果を客観的に点検することを目的としています。

本報告は大きく「授業の方法」、「授業の内容」、「学生自身の学習態度」の3項目に対する授業評価アンケート結果をまとめたものですが、「授業の方法」、「授業の内容」については、例年概ね高い評価を受けており、年度ごとに改善が見られます。これは、本学農学部教員個々の授業スキルの向上が反映されていると考えられ、着実な授業改善活動の結果と考えられます。

しかしながら、「学生の学習態度」に含まれる、学生の自学自習については昨年度まで継続されてきました報告書を見直してまいりましても、低い評価にとどまっています。大学設置基準では一回の講義あたり2倍の自学自習をこなすことが単位認定の前提となっており、抜本的な改革が求められます。

新カリキュラムは教育改革の好機です。本報告書を形だけのものに終わらせず、抽出された課題に、今こそ正面から取り組むときだと思えます。

農学部長
村上 昇

目 次

	ページ
1. はじめに-----	1
2. 授業評価実施の方法-----	2
3. 評価結果の集計および表示-----	3
4. 学部共通科目の授業評価結果-----	5
A. 学部共通科目-----	5
5. 学科基盤専門科目および専門科目の授業評価結果-----	7
B-1. 植物生産環境科学科-----	7
B-2. 森林緑地環境科学科-----	10
B-3. 応用生物科学科-----	13
B-4. 海洋生物環境学科-----	17
B-5. 畜産草地科学科-----	20
B-6. 獣医学科-----	22
6. 授業評価の総括-----	25
資料（調査票）-----	26

1. はじめに

宮崎大学農学部および宮崎大学大学院農学研究科では、前学期ならびに後学期に「学生による授業評価」を実施している。そして、各講義や実験の担当者は「学生による授業評価」の結果を受けて、「授業点検シート」を作成し、さらに学科や専攻などの単位で授業点検・授業改善活動を行っている。このような組織的な取り組みにより、全教員が授業改善に向けて不断の努力を続けている。

このような状況の中で、宮崎大学農学部は平成 22 年度に改組し、6 つの新学科が誕生した。平成 22 年度から新しいカリキュラムの基で、新しい学部教育がスタートしている。

新カリキュラムでは、1 年次において基礎植物学や基礎動物学などの学部共通科目を履修し、農学教育を受ける上で必要となる最も基礎的な教養を身につける。さらに、学部共通科目に加えて、1 年次あるいは 2 年次に各学科の専門基盤科目や専門科目を履修していくようにカリキュラムが組まれている。

現在、この新カリキュラムの教育について点検することが農学部 FD における重要課題となっている。そこで、平成 23 年度「学生による授業評価」報告書では、新カリキュラムの授業について「学生による授業評価」結果を解析し、報告書として取りまとめた。

2. 授業評価実施の方法

授業評価のアンケートは、授業担当教員が質問用紙とマークシート方式の回答用紙を任意の時期（通常は講義の終了時か試験時、実験・実習にあつては終了時）に配布し、実施した。質問用紙は講義用（資料1）と実験・実習用（資料2）の二種類を用意し、いずれの質問用紙も15項目の調査事項から成り、必要に応じて教員が独自に質問事項を追加できるような形式となっている。また、回答用紙には、改善を求めたいこと、その他意見や感想など自由に述べることのできる記述欄が設けられている。

アンケートの集計は、教員が授業評価の質問用紙（記述欄を含む）と回答用紙を回収した後、学科担当の非常勤職員の協力を得て、マークシートに●印で回答された用紙についてコンピュータ読取装置により効率的に行った。集計結果は、授業担当教員へフィードバックされるとともに、当該学科のFD委員にも報告される。

3. 評価結果の集計および表示

平成 22 年度授業評価の結果を取りまとめるに当たり、次の方針に基づき集計・表示した。

(1) 学部共通科目（講義）

- ① 本年度は授業科目別に取りまとめる方針とした。
- ② 質問 4 の私語への注意については、「5:していた。（「そのような私語などはなかった。」を含む）」の百分率で示した。
- ③ 質問 14 と 15 の予習復習については、「5:した」と「4:少しした」の差はあっても同質の回答と考慮して一括して扱い、合計をそれぞれ「予習をした」、「復習した」の百分率で示した。

(2) 学科専門基盤科目および専門科目（講義）

- ① 本年度は学科ごとの状況に合わせて、専門基盤科目、専門科目の別、必修、選択の別等により分類し、取りまとめる方針とした。
- ② 質問 4 の私語への注意については、「5:していた。（「そのような私語などはなかった。」を含む）」の百分率で示した。
- ③ 質問 14 と 15 の予習復習については、「5:した」と「4:少しした」の差はあっても同質の回答と考慮して一括して扱い、合計をそれぞれ「予習をした」、「復習した」の百分率で示した。

(3) 学科専門基盤科目および専門科目（実験・実習）

- ① 本年度は、学科ごとの状況に合わせて、実験、実習の別、専門基盤科目、専門科目の別、必修、選択の別等により分類して取りまとめる方針とした。
- ② 質問項目に対して、「1:非常に不満」と「2:やや不満」の差はあっても同質の回答と考えて一括して扱い、合計して不満回答の百分率として示した。

4. 学部共通科目の授業評価結果

A. 学部共通科目（講義）

学部共通科目（講義）の授業評価について、授業科目別に取りまとめ、集計結果を表 A に示した。

表 A を見ると、授業方法に関する項目や講義の内容に関する項目については、多くの科目において 60% 以上から良好な評価を得ている項目が多く、これらについては大きな問題はないものと考えられる。しかしながら一部で良好な評価が 60% を下回っている項目があり、改善が必要であるケースと考えられる。また、講義の内容に関する項目の評価に関しては、数物系など科目の性質による影響も考えられ、講義の難易度等に関しては慎重な検討が必要であると考えられた。

学生自身の学習態度に関する項目について、復習に関しては総じて高い値となっており、良好な結果であると判断できる。一方、予習に関しては 60% を下回る科目も複数あり、予習をしやすいような方策の検討が必要であると考えられる。自主的に調べたことがあるかという項目は、総じて低い値に留まっている。各科目において、参考図書为例示するなど、学生の自主学習意欲を高める工夫が必要であろう。

学部共通科目にはクラス数や受講生数の問題を含め、改善のために検討を要する事項が存在すると考えられる。

表A 学部共通科目の集計結果(講義)		基礎植物学 (2クラス)	基礎動物学 (1クラス)	基礎化学 (2クラス)	基礎数学 (1クラス)	基礎遺伝学 (1クラス)	基礎物理学 (1クラス)	基礎統計学 (3クラス)	基礎生態学 (1クラス)	基礎微生物学 (1クラス)	(%) 基礎環境自然経済学 (1クラス)
	質問番号 質問内容										
	「この授業方法に関する項目」										
	質問1 講義は聞き取りやすかった	71	71	40	59	73	70	85	70	91	64
	質問2 講義のスピードは適切だった	58	65	44	46	60	55	65	76	82	74
	質問3 視聴覚機器は適切であった	63	57	46	56	63	64	80	62	75	72
	質問4 私語などを注意していた	76	73	63	70	78	78	77	76	81	75
	平均(1-4)	67	67	48	58	69	67	77	71	82	71
	「講義の内容に関する項目」										
	質問5 シラバスはわかりやすかった	61	55	46	61	63	58	60	56	74	52
	質問6 講義の目標は理解できた	68	63	50	60	62	55	63	67	86	61
	質問7 講義に興味を持てた	72	67	45	50	71	52	53	75	88	59
	質問8 ねらいは明確にされていた	70	67	57	63	70	59	74	68	81	70
	質問9 授業の内容は準備されていた	87	86	71	85	87	81	89	92	93	84
	質問10 説明は理解しやすかった	63	60	31	49	50	42	52	66	81	54
	質問11 難易度は適切であった	50	56	29	42	39	36	33	57	72	39
	質問12 内容の量は適切であった	44	56	41	52	53	38	58	55	76	66
	平均(5-12)	64	64	46	58	62	53	60	67	81	61
	「学生自身の学習態度に関する項目」										
	質問13 自主的に調べたことがある	34	29	26	21	36	28	30	29	52	25
	質問14 予習した	62	49	62	56	54	63	66	44	45	45
	質問15 復習した	78	71	79	71	73	71	82	67	70	74
	平均(13-15)	58	50	56	49	54	54	59	47	56	48
	平均(1-15)	64	62	49	56	62	57	64	64	76	61

5. 学科基盤専門科目および専門科目の授業評価結果

B-1. 植物生産環境科学科

(1) 講義

講義の授業評価の集計結果を表 B-1-1 に示した。

科目区分			専門基盤科目		専門科目	
			必修科目	選択科目	必修科目	選択科目
講義科目数			1科目	6科目	1科目	18科目
質問番号	質問内容	選択肢				
「この授業方法に関する項目」						
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	94	83	96	87
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	94	83	98	92
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	90	84	100	90
質問4	私語などを注意していた	5)	84	89	92	87
平均(1-4)			91	85	97	89
「講義の内容に関する項目」						
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	84	77	96	81
質問6	講義の目標は理解できた	5)	94	84	98	87
質問7	講義に興味を持てた	5)	98	84	96	85
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	88	88	96	88
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	98	94	100	95
質問10	説明は理解しやすかった	5)	90	84	98	86
質問11	難易度は適切であった	5)	92	75	100	77
質問12	内容の量は適切であった	5)	84	85	98	90
平均(5-12)			91	84	98	86
「学生自身の学習態度に関する項目」						
質問13	自主的に調べたことがある	5)	32	38	47	37
質問14	予習した	5)と4)	16	57	41	56
質問15	復習した	5)と4)	34	71	43	73
平均(13-15)			27	55	44	55
平均(1-15)			78	78	87	81

1) 「授業方法に関する項目」

質問1~4の授業方法に関する項目では平均はすべて85%以上であることから

良好な評価を得ており、大きな問題はないと考えられる。

2) 「講義の内容に関する項目」

質問 5～12 では、専門基盤科目、専門科目ともに、平均はそれぞれ 84%以上であることから良好な評価を得ている。質問別に見ると、専門基盤科目の選択科目の質問 5 のシラバスに関する評価が 77%と平均 84%よりも低いため、シラバスの改善により、評価をさらに高めることが出来ると考えられる。質問 11 の難易度についての質問では、専門基盤科目の選択科目が 75%、専門科目の選択科目が 77%とそれぞれの平均より低く、改善の余地があると考えられる。難易度については、教員側の問題なのか、学生側の問題なのかは見極める必要がある。

3) 「学生自身の学習態度に関する項目」

質問 13～15 では、「自主的に調べたことがある」と答えた学生はどの科目でも 50%以下と低い。また「予習した」「復習した」と答えた学生は専門基盤科目の必修科目が最も低く、平均でそれぞれ 16%、34%と低かった。また、専門科目の必修科目もこれらの割合は低く、これはこれらの講義の形態がオムニバス方式であるためと思われる。選択科目で「復習した」と答えた学生は専門基盤科目、専門科目ともに 70%以上であり、復習はある程度に行っていると思われる。しかし、質問 13 の「自主的に調べたことがある」についての割合はどの科目も低く、学生が興味を持ち、主体的に学習する態度を身につけさせる工夫が必要であると思われる。

(2) 実験・実習

実験・実習の授業評価の集計結果を表 B-1-2 に示した。

科目区分			専門基盤科目 (必修科目)	専門科目 (選択科目)
	実験・実習科目数		2科目	7科目
	各科目の平均担当教員数		人	人
質問番号	質問内容	選択肢		
質問1	シラバス	1)と2)	0	1
質問2	時間設定	1)と2)	2	3
質問3	配布資料	1)と2)	0	2
質問4	実習に関する説明	1)と2)	0	2
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	0	3
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	0	1
質問7	教員としての熱意	1)と2)	0	0
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	0	0
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	0	6
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	3	1
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	1	1
質問12	レポートの考察や学習課題への助言	1)と2)	1	3
質問13	レポートの評価	1)と2)	1	1
質問14	実験技術の向上	1)と2)	0	1
質問15	TAの指導補助	1)と2)	0	1
平均(1-15)			1	2

注:1)は非常に不満, 2)はやや不満

全項目において不満と回答した学生数は、最大値が6%であり、学生は概ね満足していると判断する。最も不満の多かった質問9の「機械・器具の配分について」は検討する必要があると思われる。

B-2. 森林緑地環境科学科

(1) 講義

講義の授業評価の集計結果を表 B-2-1 に示した。

科目区分			専門基盤科目		専門科目	
			必修科目	選択科目	必修科目	選択科目
講義科目			8科目	3科目	7科目	1科目
質問番号	質問内容	選択肢				
「この授業の方法に関する項目」						
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	78	77	93	85
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	85	88	91	83
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	90	72	88	89
質問4	私語などを注意していた	5)	85	85	86	98
平均(1-4)			85	81	90	89
「講義の内容に関する項目」						
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	72	71	82	87
質問6	講義の目標は理解できた	5)	86	85	86	85
質問7	講義に興味を持てた	5)	82	75	81	81
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	90	90	94	98
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	98	94	98	100
質問10	説明は理解しやすかった	5)	83	71	83	89
質問11	難易度は適切であった	5)	69	62	58	55
質問12	内容の量は適切であった	5)	81	93	78	83
平均(5-12)			83	80	83	85
「学生自身の学習態度に関する項目」						
質問13	自主的に調べたことがある	5)	34	27	33	40
質問14	予習した	5)と4)	45	44	52	64
質問15	復習した	5)と4)	70	69	72	91
平均(13-15)			50	47	52	65
平均(1-15)			72	69	75	80

「授業方法に関する項目」

質問1～4の授業の方法に関する項目は70%以上の満足度を得ているため、おおむね問題はないと考えられるが、専門基盤科目[選択科目]で視聴覚機器は適切であったという回答が72%と相対的に低かった。また同様に専門基盤科目の必修および選択科目とも80%を切る満足度であった。専門基盤科目は学科専門の導入であり、専門導入の基礎となるため、より一層の授業改善が求められる。

「講義の内容に関する項目」

ほとんどの項目で高い評価を得ている。特に質問8と質問9がすべて90%を超えていることから、授業の目的意識の周知と授業準備が十分に改善されていることがうかがえる。一方、質問11の難易度については、55～69%と満足度が低かった。学科内での連絡会議時に「授業内容が難しい」の意見が多いことを教員間で把握しており、教育の質を担保しつつ、分かりやすい授業を展開する方策について話し合っている。

「学生自身の学習態度に関する項目」

質問13において自主的に調べたことがあると答えた学生は27～40%となっている。学生が主体性を持った学習を行うには興味を持たせることが必須であり、今後の改善が必要である。また、予習復習については、復習したと答える学生が70%を超える一方で、予習したと答える学生は相対的に低かった。現在、授業資料等を一括配布することや、予習するポイントを指示するなどの改善努力がなされている。全体的に見て、先の質問11で見られるような授業の難易度が高いと感じる学生が多いことと総合して考えると、予習復習を促すことにより、授業の理解度を上げることが急務であると考えられる。

(2) 実験・実習

実験・実習の授業評価の集計結果を表 B-2-2 に示した。

科目区分		専門基盤科目 (必修科目)	専門科目 (選択科目)
	実験・実習科目数	5科目	3科目
	各科目の平均担当教員数		
質問番号	質問内容	選択肢	
質問1	シラバス	1)と2)	4
質問2	時間設定	1)と2)	4
質問3	配布資料	1)と2)	2
質問4	実習に関する説明	1)と2)	1
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	2
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	1
質問7	教員としての熱意	1)と2)	1
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	0
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	1
質問10	不適切な学生の指導	1)と2)	3
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	3
質問12	レポートの考察や学習課題への助言	1)と2)	2
質問13	レポートの評価	1)と2)	1
質問14	実験技術の向上	1)と2)	1
質問15	TAの指導補助	1)と2)	1
平均(1-15)			2

全体的に不満のある項目は少ない。本学科はフィールド教育を中心とした野外実習が多く、時間的な制約や、場合によっては天候の影響を受けることがある。しかしながら、学生の不満がほとんどないことは、その旨の説明が十分に行われていることがうかがえる。引き続き内容の充実した実験実習の実施に努めることが望まれる。

B-3. 応用生物科学科（新学科）

（1）講義

講義の授業評価の集計結果を表 B-3-1 に示した。

科目区分			専門基盤科目 (必修科目)	専門科目	
講義科目数			10科目	5科目	0科目
質問番号	質問内容	選択肢			
「この授業方法に関する項目」					
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	80	87	
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	74	91	
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	82	88	
質問4	私語などを注意していた	5)	99	99	
平均(1-4)			84	91	
「講義の内容に関する項目」					
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	77	91	
質問6	講義の目標は理解できた	5)	73	87	
質問7	講義に興味を持てた	5)	72	87	
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	84	90	
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	96	98	
質問10	説明は理解しやすかった	5)	69	87	
質問11	難易度は適切であった	5)	48	86	
質問12	内容の量は適切であった	5)	68	90	
平均(5-12)			73	90	
「学生自身の学習態度に関する項目」					
質問13	自主的に調べたことがある	5)	41	41	
質問14	予習した	5)と4)	62	71	
質問15	復習した	5)と4)	76	76	
平均(13-15)			60	63	
平均(1-15)			73	85	

「授業方法に関する項目」

質問1～4の授業の方法に関する項目はすべて74%以上であり、良好な評価を得ており、平均的には大きな問題はないと考えられる。しかし、専門基盤科目の講義スピードについては他の結果と比較すると低い値であった。これは基盤科目の化学系講義でスピードが早いと感じている学生がある程度いるため

ある。学科の特徴として、化学と生物を中心とした講義を展開しているが、生物を得意として入学してくる学生が多数であり、化学系の講義内容の理解と講義スピードとのギャップがあるものと思われる。

「講義の内容に関する項目」

ほとんどの項目で70%以上の高い評価を得ている。質問11の難易度に関する質問が48%であるが、1年次の専門基盤科目であるため、高等学校における関連科目の学習状況により難易度の感じ方に違いがあることが考えられた。難易度に関しては、講義スピードを早く感じている学生がある程度いることと関連していると考えられる。したがって、1年次の専門基盤科目では、高等学校での学習状況が異なる学生に対して、多くの学生にとって理解しやすい講義になるよう工夫することが必要であると考えられた。一方、専門科目の必修科目ではすべての項目で86%以上の平均値を得ており、応用生物科学科に入学してきた学生の興味と専門科目内容が合致しているためであると考えられる。このことより専門を理解する上で必要な基礎科目である専門基盤科目とのギャップが示唆された。どのような学問でも、応用は興味深く、応用を理解するための基礎科目は退屈なものである。しかし、基礎科目が理解できて応用科目が身につくものであり、学生にはしっかりと勉学に励んでもらいたい。

「学生自身の学習態度に関する項目」

質問13において自主的に調べたことがあると答えた学生は、専門基盤科目、専門必修科目共に41%となっていた。昨年度の報告よりも10%の増加であり、

教員の講義の工夫があったものと考えられるが、学生の自主学習の意欲は高いとは言えない。さらなる学生の自主学習意欲を高める工夫が望まれる。予習を行っている学生は、専門基盤科目、専門必修科目それぞれ 62-71%、復習を行っている学生は専門基盤科目、専門必修科目共に 76%であり、良好であると判断される。しかし、昨年と大きな変化は認められないため、今後も講義を工夫し、予習や復習をしやすい環境を整えることが望まれる。また、専門基盤科目の難易度が高いと感じる学生には、さらなる自主学習を望む。

(2) 実験・実習

実験・実習の授業評価の集計結果を表 B-3-2 に示した。

科目区分			(%)	
			専門基盤科目 (必修科目)	専門科目 (選択科目)
	実験・実習科目数		7科目	0科目
	各科目の平均担当教員数		3.2人	人
質問番号	質問内容	選択肢		
質問1	シラバス	1)と2)	0.6	
質問2	時間設定	1)と2)	1.4	
質問3	配布資料	1)と2)	1.1	
質問4	実習に関する説明	1)と2)	1.3	
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	1.1	
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	1.1	
質問7	教員としての熱意	1)と2)	0.5	
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	0.3	
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	1.4	
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	0.8	
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	2.0	
質問12	レポートの考察や学習課題への助言	1)と2)	1.7	
質問13	レポートの評価	1)と2)	0.0	
質問14	実験技術の向上	1)と2)	0.0	
質問15	TAの指導補助	1)と2)	0.0	
平均(1-15)				
注:1)は非常に不満, 2)はやや不満				

応用生物科学科では、2年次から履修する専門基盤科目である実験・実習科目が6科目設定されている（生物学実験，分析化学実験，機器分析化学実験，有機化学実験，微生物学実験，生物化学実験）。化学系の実験と生物系実験があるが、内容や指導方法に対して不満を感じている学生は極めて少数であり、いずれの実験実習のいずれの項目においても大きな問題はないと考えられる。

B-4. 海洋生物環境学科（平成 23 年度の評価報告）

（１）講義

講義の授業評価の集計結果を表 B-4-1 に示した。

科目区分			専門基盤科目 (必修科目)	専門科目	
講義科目数			4科目	10科目	4科目
質問番号	質問内容	選択肢			
「この授業方法に関する項目」					
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	97	75	94
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	91	78	94
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	95	82	94
質問4	私語などを注意していた	5)	89	80	88
平均(1-4)			93	79	92
「講義の内容に関する項目」					
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	75	73	82
質問6	講義の目標は理解できた	5)	95	83	94
質問7	講義に興味を持てた	5)	91	77	92
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	87	84	90
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	95	93	96
質問10	説明は理解しやすかった	5)	89	75	96
質問11	難易度は適切であった	5)	81	64	86
質問12	内容の量は適切であった	5)	88	78	92
平均(5-12)			88	78	91
「学生自身の学習態度に関する項目」					
質問13	自主的に調べたことがある	5)	47	39	55
質問14	予習した	5)と4)	47	61	59
質問15	復習した	5)と4)	61	77	61
平均(13-15)			52	59	59
平均(1-15)			82	75	85

「授業方法に関する項目」（質問 1～4 の項目）

専門基盤科目については、概ね 9 割近くの学生から良好な評価を得ており、4 項目の平均からも大きな問題はないと考えられる。専門必須科目についても、各項目で 8 割近くの学生から良好な評価を得ており、大きな問題はない。一方で、講義の聞き取りやすさ・スピードについては、他の科目の項目に比べ、若干低い評価となり、各科目で評価にバラつきも認められた。専門必須科目は、2

年次の履修科目の大半を占め、3年次以降に受講するより専門的な科目へも繋がることから、講義の聞き取りやすさ・スピードについては、各教員での授業内容の回顧と、今後に向けた改善を継続すべきである。

「講義の内容に関する項目」（質問5～12の項目）

基盤科目、専門科目とも、ほとんどの項目で高い評価を得ている。一方で、専門必須科目の難易度に関する項目（質問11）が64%とやや低い評価であった。特に、1年次後期と2年次前期に開講される専門科目において、難しいと評価した学生が認められた。この理由のひとつに、高等学校における関連科目の履修状況の相違により、学生個人の難易度の捉え方に違いが生じたことが考えられる。従って、高等学校での学習状況や、共通教育科目、学部共通科目における学習内容とその理解度を把握し、講義内容に対する工夫や指導が必要であると考えられる。

「学生自身の学習態度に関する項目」（質問13～14の項目）

基盤科目、専門科目とも、自主的な学習や予習に時間を割いていると答えた学生の割合は5-6割程度であり、復習に重点を置いて学習に臨んでいる傾向が認められた。特に、専門必須科目における復習度が高く、良好であると判断できる。3年次以降は、さらに専門性の高い講義内容となるため、1、2年次のうちから、予習を含めた自主的な学習態度を学生に身につけさせる工夫や指導が望まれる。

(2) 実験・実習

実験・実習の授業評価の集計結果を表 B-4-2 に示した。

科目区分			専門基盤科目 (必修科目)	専門科目 (必須科目)
	実験・実習科目数		2科目	4科目
	各科目の平均担当教員数		12人	2.5人
質問番号	質問内容	選択肢		
質問1	シラバス	1)と2)	0	0
質問2	時間設定	1)と2)	2	3
質問3	配布資料	1)と2)	3	0
質問4	実習に関する説明	1)と2)	0	0
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	2	0
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	0	0
質問7	教員としての熱意	1)と2)	0	0
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	2	0
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	0	3
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	0	3
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	13	0
質問12	レポートの考察や学習課題への助言	1)と2)	10	0
質問13	レポートの評価	1)と2)	0	0
質問14	実験技術の向上	1)と2)	2	0
質問15	TAの指導補助	1)と2)	0	1
平均(1-15)			2	1
注: 1)は非常に不満, 2)はやや不満				

専門基盤ならびに専門科目内の実習・実験については、ほぼすべての項目で、非常に不満、やや不満と答えた学生は認められない。複数教員が担当する実験・実習であるが、1、2年次の実験・実習科目については、大きな問題点はない。ただ、前期に開講した1年生向けの専門基盤科目内実習において、レポート作成に関連する指導不足を指摘する学生が若干認められた。入学当初から、実験・実習のレポート作成に関して十分な指導を行うことで、文章表現力や考察力の習得を段階的に進めていくべきと考える。

B-5. 畜産草地科学科

(1) 講義

講義の授業評価の集計結果を表 B-5-1 に示した。

表B-5-1 畜産草地科学科の講義科目集計結果 (％)

科目区分			専門基盤科目 (必修科目)	専門科目	
講義科目数			5科目	8科目	9科目
質問番号	質問内容	選択肢			
「この授業方法に関する項目」					
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	89	78	75
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	88	89	87
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	86	87	85
質問4	私語などを注意していた	5)	93	86	84
平均(1-4)			89	85	83
「講義の内容に関する項目」					
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	78	76	71
質問6	講義の目標は理解できた	5)	90	89	86
質問7	講義に興味を持てた	5)	92	83	89
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	92	87	80
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	99	96	93
質問10	説明は理解しやすかった	5)	87	85	82
質問11	難易度は適切であった	5)	74	76	77
質問12	内容の量は適切であった	5)	77	80	80
平均(5-12)			86	84	82
「学生自身の学習態度に関する項目」					
質問13	自主的に調べたことがある	5)	37	40	41
質問14	予習した	5)と4)	38	56	51
質問15	復習した	5)と4)	81	74	68
平均(13-15)			52	57	53
平均(1-15)			80	79	77

「授業方法に関する項目」

質問1～4の授業の方法に関する項目はすべて75%以上の受講生から良好な評価を得ており、大きな問題はないものと思われる。

「講義の内容に関する項目」

ほとんどの項目で高い評価を得られており、大きな問題はないものと思われる。

「学生自身の学習態度に関する項目」

復習をしている学生の割合は高く、良好であると判断される。専門基盤科目では5科目中2科目がオムニバス授業科目であり、予習できない状況であったことから、低い数値となったが、専門科目でも自主的な学習や予習を行ったと答えた学生の割合が低く、学生の自主的な学習態度を高める工夫や指導が望まれる。

(2) 実験・実習

実験・実習の授業評価の集計結果を表B-5-2に示した。

表B-5-2 畜産草地科学科の実験・実習科目集計結果 (%)

科目区分			専門基盤科目 (必修科目)	専門科目	
実験・実習科目数			2科目	1科目	6科目
各科目の平均担当教員数			15人	3人	4人
質問番号	質問内容	選択肢			
質問1	シラバス	1)と2)	0	6	1
質問2	時間設定	1)と2)	18	10	17
質問3	配布資料	1)と2)	0	4	3
質問4	実習に関する説明	1)と2)	0	4	4
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	0	0	1
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	0	2	4
質問7	教員としての熱意	1)と2)	0	2	3
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	0	0	0
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	3	4	6
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	2	2	0
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	0	2	7
質問12	レポートの考察や学習課題への助言	1)と2)	1	6	7
質問13	レポートの評価	1)と2)	3	4	1
質問14	実験技術の向上	1)と2)	1	0	1
質問15	TAの指導補助	1)と2)	0	2	6
平均(1-15)			2	3	4

注:1)は非常に不満, 2)はやや不満

ほとんどの項目で高い評価を得ている。しかし質問2の時間設定については10~18%の受講生が不満を訴えており、昨年度の専門基盤科目の数値よりは改善されているが、今後この点についてさらに改善する必要があるものと思われる。

B-6. 獣医学科

(1) 講義

講義の授業評価の集計結果を表 B-6-1 に示した。

表 B-6-1 獣医学科の講義科目集計結果

(%)

科目区分			専門基盤科目 (必修科目)	専門科目	
				必修科目	選択科目
講義科目数			1 科目	18 科目	1 科目
質問番号	質問内容	選択肢			
「この授業方法に関する項目」					
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)		84	100
質問2	講義のスピードは適切だった	5)		85	97
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)		86	94
質問4	私語などを注意していた	5)		90	97
平均(1-4)				86	97
「講義の内容に関する項目」					
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)		89	91
質問6	講義の目標は理解できた	5)		93	97
質問7	講義に興味を持てた	5)		95	97
質問8	ねらいは明確にされていた	5)		93	100
質問9	授業の内容は準備されていた	5)		96	100
質問10	説明は理解しやすかった	5)		89	97
質問11	難易度は適切であった	5)		73	71
質問12	内容の量は適切であった	5)		78	100
平均(5-12)				88	94
「学生自身の学習態度に関する項目」					
質問13	自主的に調べたことがある	5)		78	76
質問14	予習した	5)と4)		78	97
質問15	復習した	5)と4)		89	91
平均(13-15)				82	88
平均(1-15)				85	94

「授業方法に関する項目」

質問1～4の授業の方法に関する項目はすべて80%以上の良好な評価を得ており、平均的には大きな問題はないと考えられる。

「講義の内容に関する項目」

質問5～10の講義の内容に関する項目はすべて80%以上の良好な評価を得ており、大きな問題はないものと思われる。質問11に関しては必修科目が73%、選択科目が71%であった。特に必修科目では極端に低い講義があり、今後、授業内容の改善が望まれる。また、質問12については必修科目で78%であったことより、教える内容を整理して厳選することも必要である。

「学生自身の学習態度に関する項目」

質問13と質問14が必修科目でそれぞれ78%であったことより、予習をしやすいような方策の検討や学生の自主学習意欲を高める工夫が必要である。一方、復習をしている学生の割合は高く、良好と判断される。

(2) 実験・実習

実験・実習の授業評価の集計結果を表 B-6-2 に示した。

表 B-6-2 獣医学科の実験・実習科目集計結果 (％)

科目区分			専門基盤科目 (必修科目)	専門科目 (選択科目)
	実験・実習科目数		0 科目	10 科目
	各科目の平均担当教員数		人	2 人
質問番号	質問内容	選択肢		
質問1	シラバス	1)と 2)		0
質問2	時間設定	1)と 2)		0
質問3	配布資料	1)と 2)		0
質問4	実習に関する説明	1)と 2)		0
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と 2)		0
質問6	実習前・実習中の説明	1)と 2)		0
質問7	教員としての熱意	1)と 2)		0
質問8	学生の質問に対する対応	1)と 2)		0
質問9	機械・器具の配分	1)と 2)		0
質問 10	不適切な学生への指導	1)と 2)		0
質問 11	レポートの書き方の指導	1)と 2)		0
質問 12	レポートの考察や学習課題への助言	1)と 2)		0
質問 13	レポートの評価	1)と 2)		0
質問 14	実験技術の向上	1)と 2)		0
質問 15	TAの指導補助	1)と 2)		0
平均(1-15)				0

注: 1)は非常に不満, 2)はやや不満

全項目において不満と回答した学生数は 0%であり、学生は概ね満足していると判断される。

6. 授業評価の総括

(1) 学部共通科目における授業評価結果

学部共通科目について、多くの科目では、授業方法に関する項目、講義内容に関する項目では、概ね満足できる評価結果を得ている。しかし、一部の科目では授業方法や内容について十分な検討を行う必要があると考えられた。また、予習を促すような工夫や学生の自主学習意欲を高める工夫についての検討が望まれる。

(2) 学科専門基盤科目および専門科目（講義）

「授業方法に関する項目」、「講義の内容に関する項目」に関しては、平均的には概ね良好な評価を得ている。今後さらに、視聴覚機器の適切な使用やシラバスの改善、高等学校での履修歴にかかわらず理解しやすい講義の工夫に努力する必要があると考えられた。

「学生自身の学習態度に関する項目」に関しては、予習を促すような工夫、学生が興味を持ち、主体的に学習する態度を身につけさせる工夫も必要であると考えられた。

(3) 学科専門基盤科目および専門科目（実験・実習）

実験・実習については、学生による満足度が低い回答について集計し、評価を行った。平均的には満足度が低い回答の割合は少なく、概ね満足できる評価であると判断される。今後の課題として、レポートの書き方等の指導について改善努力が必要であると考えられた。

資料 1

平成 22 年度「学生による授業評価」調査票（質問用紙）

科目名： _____、学科名： _____、学年： _____

この調査票は、本学部の授業内容・方法を一層充実・改善するための資料となるものです。記入にあたっては、学生諸君の素直な評価をお願いします。なお、この調査はあなたの成績と一切関係はありません。

下記の項目の質問について、別紙の「学生による授業評価」調査票（回答表）に適切と思われる番号の丸数字を塗りつぶして下さい。複数回答しても結構です。また、それぞれの質問の項目で、指定された箇所以外でも、とくに評価できる点あるいは改善すべき点があれば、「記述欄」に書いて下さい。」

A

「この授業方法に関する項目」

1) 講義は、聞き取りやすかったですか。

5: 聞き取りやすかった、4: 早口で聞き取りにくかった、3: 声が小さく聞き取りにくかった、2: その他の理由で聞き取りにくかった。（1～0はなし）

*2に丸印をつけた人は、どのような点が聞き取りにくかったか、記述欄に記入して下さい。

2) 講義を進めるスピードは適切でしたか。

5: 適切、4: 早過ぎる、3: 遅過ぎる。（2～0はなし）

3) 講義において板書の仕方や配布プリントあるいはOHP（液晶プロジェクター）などの視聴覚機器は適切でしたか。

5: 適切であった、4: 板書が読みづらかった、3: OHPが見にくかった、2: プリントやOHPは使用されなかった。（1～0はなし）

4) 教員は講義の進行を妨げるような行為（私語など）があった場合、注意していましたか。

5: していた。（「そのような私語などはなかった。」を含む）4: していなかった。（3～0はなし）

「講義の内容に関する項目」

5) 配布したシラバスは、講義の内容・進め方についてわかりやすく書いてありましたか。

5: わかりやすかった、4: わかりにくかった、3: シラバスを読んでも内容が良く分からなかった、2: シラバスについて知らなかったので、受講前に読んでいなかった。（1～0はなし）

6) この講義全体の目標はよく理解できましたか。

5: 理解できた、4: 理解できなかった。（3～0はなし）

7) この授業に興味を持ってましたか。

5: 持てた、4: 持てなかった。（3～0はなし）

*4に丸印をつけた人は、興味もてなかった理由は何ですか？記述欄に記入して下さい。

8) 毎回の授業のねらいはその都度明確にされていましたか。

5: されていた、4: されていない。（3～0はなし）

9) 毎回の授業の内容はよく準備されたものと感じられましたか。

5: 準備されていた、4: 準備不足。(3~0はなし)

10) 授業での説明は理解しやすかったですか。

5: 理解しやすかった、4: 理解しにくかった。(3~0はなし)

*4に丸印をつけた人は、どのような点が理解しにくかったか、記述欄に記入して下さい。

11) 授業の内容は難しく(難易度)感じましたか。

5: 適切、4: 難しかった、3: 易しすぎた。(2~0はなし)

*5に丸印をつけた人は、どのような点が難しいと感じたか、記述欄に記入して下さい。

12) 授業内容の量は、適切でしたか。

5: 適切、4: 多すぎる、3: 物足りなかった。(2~0はなし)

「学生自身の学習態度に関する項目」

13) この授業に興味を持ち、自主的に調べたことはありますか。

5: ある、4: ない。(3~0はなし)

14) この授業について、予習しましたか。

5: した、4: 少しした、3: しなかった。(2~0はなし)

*3に丸印をつけた人は、何故予習しなかったのか、その理由を記述欄に記入して下さい。

15) 復習をしましたか。

5: した、4: 少しした、3: しなかった。(2~0はなし)

*3に丸印をつけた人は、何故復習しなかったのか、その理由を記述欄に記入して下さい。

資料2

平成22年度「学生による授業評価」実験・実習に関する調査票（質問用紙）

科目名：_____、学科名：_____、学年：_____

この調査票は、本学部の実験・実習内容・方法を一層充実・改善するための資料となるものです。記入にあたっては、学生諸君の素直な評価をお願いします。なお、この調査はあなたの成績と一切関係はありません。

下記の項目の質問について、別紙の「学生による授業評価」調査票（回答表）に〔 〕の中から適切と思われる番号の丸数字を塗りつぶして下さい。また、この実験・実習に関する感想や評価できる点あるいは改善すべき点、があれば、回答表のコメント欄に記入してください。

〔5：非常に満足 4：やや満足 3：普通 2：やや不満 1：非常に不満〕

A

「実験・実習に関する項目」

1. 実験・実習に関するシラバスは、適切であった。
2. 実験・実習の時間設定が適切であった。
3. 実験・実習に関する資料（実験書あるいはプリント資料）は学生に理解できるように工夫されていました。
4. 実験・実習に関する説明は要点が理解できる説明であった。
5. 機械・器具の使用法の説明が明確であった。
6. 実験・実習前あるいは実習中の教官の説明は適切であった。
7. 実験・実習に教官としての熱意が感じられた。
8. 学生の質問に丁寧に対応していた。
9. 実験・実習器具・機械が適切に配分されていた。
10. 不適切（不真面目な学生も含む）な実験・実習をしている学生にはその都度、教員は注意する等の指導をしていた。
11. レポートの書き方の指導が適切であった。
12. レポートの考察や学習課題等の助言がなされていた。
13. レポートの評価（訂正等）は適切であった。
14. あなたは実験を通じて、実験技術等が向上しました。
15. ティーチングアシスタントは適切な指導補助を行いました。